

テーマ「教室でできる気になる子の支援
～発達障害が疑われる子の支援に向けて～」

講師：曾山 和彦（名城大学 教授）

1 講義内容

(1) はじめに

教室でできる特別支援教育の基本は、気になる子だけを支援するのではなく、教室にいる全員の子を育てること（ハンカチ理論）。学級づくりをしっかりと行い、教室を子どもたちの居場所にすれば、現在の教育の課題（①学力②生徒指導③通常学級における特別支援④保護者支援）が解決する。

(2) 特別支援教育充実に向けた国の動き

ア 高等学校における通級による指導の制度化及び充実（平成30年度開始）

イ 特別支援学校全教員の特別支援教諭免許取得（平成32年度まで）

ウ 大学教員養成課程で特別支援教育に関する科目の必修化

(3) 現代の子ども像と支援の基本方策

ア 自尊感情（自己評価の感情）を育む

イ ソーシャルスキルを育む

(4) 教室でできる特別支援教育

ア 気になる子の理解（Step 1）

ア ユニバーサルな保育・教育のために、発達障害の可能性のある子の理解は欠かせない

イ 障害理解と支援の基本理論をおさえてはじめて、個に応じた具体的支援が見えてくる（「I think」の前には理論が必要）

ウ 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

エ 校内体制推進のポイント

- ・管理職と特別支援教育コーディネーターのタッグ
- ・個別の支援計画と指導計画作成
- ・定期的な校内委員会の開催

オ ASD（自閉症スペクトラム）に対する「理にかなう」支援

イ 学級集団の理解（Step 2）

ア 「居場所」の2条件

- ・「ルール」と「ふれあい（リレーション）」

イ A. マズローの階層説が「居場所」の理論ベース

ウ 全ての子の自尊感情とソーシャルスキルの育成（Step 3）

ア 「ルール・ふれあいづくり」を通して、自尊感情とソーシャルスキルを育む

イ ルールづくりのワザ

ウ 年齢・発達段階への配慮

- ・Iメッセージ
- ・勇気づけ

エ ふれあいづくりは「縦糸（教師と子どもを結ぶ糸）」と「横糸（子ども同士を結ぶ糸）」を織り上げる

オ ソーシャルスキル・トレーニング

- ・演習「ジャンケン手の甲タッチ」

(5) まとめ

ア 軌跡が奇跡を生み輝跡となる。

イ 周りの子の支援は教師一人の支援をはるかに超える（周りの子を育てることが大切）。

ウ 教育は焦ってはいけない。焦ると子どもを追い詰めることになる。4月から比べると随分成長している。進み続けるのではなく、少し立ち止まって景色を楽しんでみると、また一步踏み出す元気が出てくる。今、見ている景色は決して悪いものではない。

2 受講者の感想

- IメッセージとY o uメッセージの話が印象に残った。学級づくりが全てに繋がっているという話も納得できた。
- 理論を勉強することが必要だと感じた。児童理解をしっかりと行い、ユニバーサルデザインの授業づくりをすることが大切だと思った。明日からどのように学級経営をしていくのかを考えさせられた。
- 発達障害の子どもたちをどのように支援するかという点で考えるのではなく、その子どもたちを含めて学級をどのように経営するのかという視点が分かりやすく、今後の実践に生かしたいと思った。